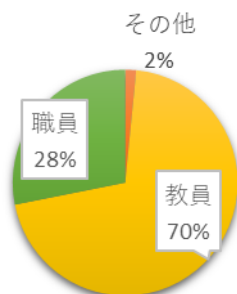


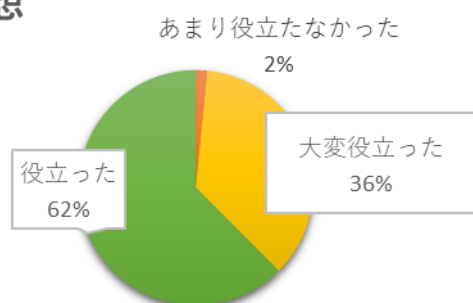
アンケート集計

回答率 69.6% (64/92)

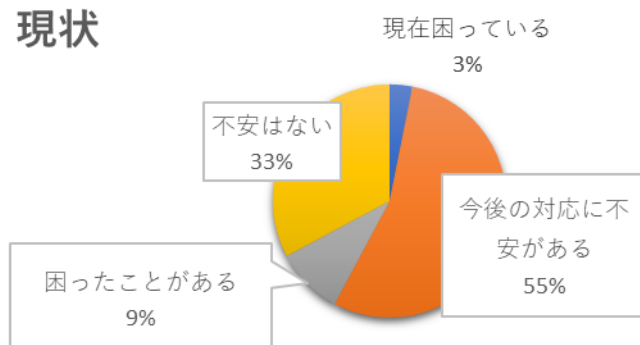
職務



受講の感想



現状



すいせいについて



学内で、どのような体制や対応が必要だと思いますか？(原文のまま)

- ・注意の必要な学生に関するカルテのようなものが必要と思います。その際、教員が共同編集できるような、情報基盤（個人情報の問題をクリアした）が必要とおもいます。また、学生に面談する際のチェックリストのようなものがあれば助かります。
- ・学内である程度の情報共有が必要に思う。
- ・障がいや発達の特徴を持つ学生が相談できるすいせい様の職員の方のような専門職がいる相談口があるとよいと思います。
- ・支援体制を整えるとともに、こういう制度があるということを学生に広く伝えるべきだと思います。
- ・どこまでの学生を、どの程度支援するのか、ガイドラインが必要だと思います。
- ・学生がリラックスして話ができる環境が必要かと思います。
- ・対象の学生がいたらならば、アセスメントを教員間で共有していくことが必要だと感じた。
- ・配慮を要する学生への対応が可能な職員が必要であると思う。現状では、どのような配慮をするかは、教員に丸投げする形になっている。
- ・学内で連携し学外の社会資源とのつながりの構築が必要だと感じました。
- ・パニック障害が不安障害等、精神疾患を持つ学生に向けた、きめ細やかな支援が必要。
- ・まずは、相談窓口の常設だと思います。
- ・学生が躊躇することなく相談できる体制・対応が必要。
- ・学生に信頼してもらえ体制をつくること。
- ・<就業支援について>支援を必要としている学生が、早期に気軽に相談ができる環境。
- ・マッチングのことを考えると、一定期間が必要となるため。
- ・よくわからない。
- ・支援を専門にする人材の配置・増員する必要性を感じました。
- ・常勤の専門職員が必要。
- ・障害とその対処方法の実例の情報。
- ・教職員が支援が必要な学生の情報を共有できる仕組み作りが必要。ただし、センシティブな個人情報のため、取り扱いには注意が必要。
- ・気になる学生について、教員が相談できる場所と可能な範囲での情報共有の場
- ・学内に教員が気軽に相談できる窓口があればありがたいです。現在は該当する学生との関わりはありませんが、もし対応が必要となった場合、障がいのある学生（特別な配慮を必要とする学生）への対応については、各教員に任せるのではなく、（専門職と学務課が）本人・保護者と面談を重ねて具体的な方策を

決めた後に、科目担当教員に周知する形にさせていただけると本人の負担や困りもより軽減できるのでないかと思いました。

- ・ 専門スタッフの充実。
- ・ キャンパスを超えて協力し合える体制が必要だと思います。障がい支援に詳しくない人が、詳しい人に相談でき、1人で抱え込むことがないやり取りができると良いと思います。
- ・ 対象となる学生は、複数の講義・実習にわたって配慮することが必要なため、各講義の進捗状況をまとめて把握し、対応できる職員の配置が必要だと思います。
- ・ 学生支援室の立ち上げ、正職員による業務担当、実働人員の確保、支援の質の向上。
- ・ 教員からも気軽に相談できる体制は非常にありがたいです。このような研修会にも引き続き参加できるとよいと思います。
- ・ 知識のない、または中途半端な認識では解決できないことだと思っています。
- ・ このような研修を学内全体で真摯に取り組んで行く必要性を感じました。
- ・ 学内での窓口の設置、学部ごとにあればベスト。
- ・ 教員に対応の全てを押し付けるのではなく、一緒に具体的な対応をしてくれる専門の正規職員の数を増やすこと。
- ・ 必要なときに速やかに対応できる体制を整えておく必要があると思いました。
- ・ このようなセミナーの開催による問題の周知や、Q&A集の作成、相談体制。
- ・ すぐに相談できる団体と年間契約を締結しておく。
- ・ 合理的配慮については個別の事情があり、大変難しいと思いますが、キャンパスや学科で対応に差が生じないように、大学としてある程度の例示をした方がよいように思います。例えばですが、「JASSOの「教職員のための障害学生修学支援ガイド」に準ずる」と明示するなど、対応のよりどころとなる指標を教職員にも学生さんにも予め示しておくのが良いと思います。
- ・ 困りごとのある学生の教職員感情情報共有。対応に困難があると先生だけが知っていて職員が知らなかった学生の対応で、職員側の準備が十分でなく苦労したことがある。
- ・ 気軽に相談できる窓口が必要。

ご意見・ご要望等(原文のまま)

- ・ありがとうございました。
- ・機会があれば、またこのような講義を聞きたいと思います。
- ・在籍中にも、今後の生活の場となる地域を意識した支援が重要だと感じました。
- ・学生本人自身が自分のことを知ることができるよう、本人からどこが強みでどこが苦手なのか、向き合って関わっていきたいと思う。
大学と地域、企業との連携で就労支援があることを知り、地域連携が進めばよいと思った。
- ・昨年度よりも分かり易かった。
- ・障害者支援の重要さと共に、その難しさも理解しました。
- ・今のところ意見はない。
- ・対応の具体例を示していただき、大変ためになりました。
- ・就労支援については、教員が大きくかかわることは少ないと考えていますが、講義での配慮や日常での相談について、どの程度対応できるのか、する必要があるのかなど、個人で判断するには困難なことが今後増えそうな気がするので、組織としてどう対応するのかの方針を話す場も必要かと思う。
- ・具体的な事例を挙げてお話しいただいたので、分かりやすく、参考にさせていただきました。
- ・事例を交えてお話いただき、とても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・分かりやすいお話で大変勉強になりました。「学内でできることの限界」という部分は常々悩ましく思っておりましたので、有難く拝聴いたしました。ありがとうございました。
- ・業務的には私の場合、普段学生さんに関わることはほとんどありません。しかし担当によってはそのような学生さんに関わる方が沢山いらっしゃいます。そのような方にも積極的にもっと職員さんより声をかけて視聴していただくことも必要なのではないかと思います。
- ・発達障害に関して見た目にとっても判別しにくいグレーな人は多くいると思います。気軽に相談できる窓口、本人が周りの目を気にせず相談できる体制を整えてあげてほしいと思います。
- ・質疑応答で理解が深まりました。ありがとうございました。
- ・ありがとうございました。
- ・こういった研修は教職員必須にしないと、結果的に対応にばらつきが出てよくならないのではと思う。